



地方独立行政法人

岐阜県立多治見病院

県病院のちょっと気になる？知りたい！ 医療の情報誌

2018

vol. 38

平成30年8月1日発行

Gifu prefectural
TAJIMI HOSPITAL
information

けんびょういん

Contents

理事長兼院長就任あいさつ —— 2

各部・科からの便り —— 3・5

新中央診療棟基本設計 —— 4

臨床研修医の紹介 —— 5

平成30年度
健康づくり講座年間予定表 —— 6



土岐川上空より俯瞰した新診療棟予定図

就任のあいさつ



理事長兼院長
近藤 泰三

今年4月より理事長兼院長に就任いたしました近藤泰三です。

県立多治見病院は、1939年開院以来、主として東濃可児地域の医療に基幹病院として貢献してまいりました。2010年4月に地方独立行政法人として新たに出发し、原田前院長のもと、様々な分野での改革発展がなされてきました。

私は、2014年1月に県立多治見病院へ赴任してまいりましたが、まだ改革半ばでした。十分に医師が充足できていなかった診療科もありましたが、その後、主要な内科部門、心臓外科、血管外科等に医師が赴任し、切れ目のない医療が提供できつつあります。例えば腎臓内科は、しばらくの間、常勤医が1名程度でしたが、複数名の医師が赴任しました。あわせて中西病棟の血液透析施設を移設し、ベッド数も従前の6床から15床に増やし、血液浄化センターとして整備しました。これにより透析導入期の患者さんの入院加療が容易となりました。また、内分泌内科スタッフも充実してまいりました。血管外科でも腹部大動脈瘤、胸部大動脈瘤のステントグラフト術という開胸、開腹をせずに血管内に人工血管を留置するカテーテルによる治療が可能となりました。

周囲の医療機関との連携も不十分でしたが、徐々に整つてまいりました。病病連携会議（東濃可児地域の病院長の集まる会議）を開始し、病院間の連携もより密に進めてまいりました。厚労省は、当院のような急性期加療を行なう病院は、外来患者数を減少するように指導しております。つまり、安定した状態の患者さんは、地元の開業医の先生を受診していくだけ、検査加療のときは、大病院を受診することを勧めています。地域医療支援病院という認定を受けるためには、逆紹介率（当院から開業医の先生に患者さんを紹介する率）、紹介率（当院へ開業医の先生から患者さんを紹介していただく率）が一定の水準でなければならないことになっています。理想的には、一人の患者さんを当院主治医と開業医の先生とで一緒に診ていくこと、「1患者2主治医」が望ましいと考えます。その為に、当院では、「多治見シャトル」という仕組みを構築しました。当院から開業医の先生に逆紹介をした患者さんが、半年又は1年経過後、当院より開業医の先生に通知して、当院へ検査等での

受診を勧めることで確実に当院の定期受診ができる仕組みを提供しています。その結果、逆紹介率、紹介率が上昇しており、開業医の先生との連携がより密になってきています。

がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、災害拠点病院、感染症指定医療機関としての役割はもとより、救命救急センター、周産期母子医療センターは東濃可児地域の唯一の拠点として地域医療の充実に寄与しております。

また、緩和ケア病棟や精神科病棟の開設、高精度放射線治療（2018年4月より高精度放射線治療機器としては、2台目となるTRUEBEAMでの治療も開始しました）を進めてまいりました。

これからも東濃地域の医療の最後の砦として、3次救急を担うとともに、新しい事業も進めていく予定です。

2019年5月には、10年以上使い続けた現在の医療情報システム（電子カルテ）を刷新し、スタッフの皆さんには使いやすく、患者さんにも便利で優しいシステム構築を目指します。

また、2022年には、現在の外来診療を行っている中央診療棟を、現在の南側駐車場に新診療棟として建て替えいたします。明るく広い外来と、充実した医療設備により、患者さんの診断加療により役立つことを目指しています。

将来起こりうる災害、住民の高齢化、就業人口の減少、社会保険制度の変革等々の変化に柔軟に対処できる「強い」県立多治見病院を目指していきます。

基本理念「安全で、やさしく、あたたかい医療に努めます」の実践のため、より一層地域の皆様、各医療機関とコミュニケーションを図っていくつもりです。御支援、御鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



土岐川上空より俯瞰した現在の病院 平成30年8月13日撮影

循環器内科コラム

足は第二の心臓と言われています。なぜでしょうか。足には全身の筋肉のうちの3分の2が存在しています。筋肉には血液が循環しています。足の運動は、血液の循環を促し、ポンプ作用を行っているのです。

循環がうまくできないと間欠性跛行という症状ができます。歩いている途中で足や腰に痛みが生じます。少し休むとまた歩けるようになります。一方、歩き始めから足が痛い時は、膝や股関節症による痛みの可能性があります。これは、整形外科が専門です。歩いている途中で足や腰に痛みが生じますが、かがむと樂になる場合は、脊柱管狭窄症による痛みの可能性があります。これも整形外科が専門です。ただし、足の動脈疾患と脊柱管狭窄症は20%合併するといわれています。まずは、足の動脈疾患を否定することが大切です。これは、循環器内科が対応します。

足の動脈はご自分の手で触れることができます。太ももには大腿動脈が走っています。足の甲には足背動脈が、くるぶしの下には後脛骨動脈が走っています。医療



(文責 副院長兼内科統括部長 日比野剛)

機関で血圧脈波という検査を受けると簡単に血流障害が診断可能です。超音波検査も有用です。さらなる精密検査が必要な時は、CTや血管造影を行います。

足の動脈治療はどんどん進化しています。心臓冠動脈の治療同様に、バルーン治療、ステント治療ができます。重症な方は、バイパス手術を受けていたこともあります。

ただし最も重要なのは、運動療法です。世界最古の医者といわれている古代ギリシャのヒポクラテスの名言があります。『歩くことは、人間にとつて最良の薬である』と。

歩いて足や腰が痛くなる方は、循環器内科にご相談ください。その足を治すため、県病院は頑張ります。

感染管理部便り

感染管理部は、患者さんをはじめその御家族、お見舞いの方々、病院職員、研修学生など、病院に入りするすべての人々を感染から守るために活動や地域の連携施設とともに感染予防に必要な対策の企画、立案、改善などを含めた幅広い活動をしています。

【活動内容】

安全で質の高い医療を提供するために、

① 感染対策委員会や感染対策チーム、看護部感染対策委員会のメンバーとともに、感染予防対策の推進に取り組んでいます。

② 感染対策チーム（ICT）、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）のメンバーそれぞれの専門性を生かし、協力し組織横断的に活動しています。



【主な活動】
① ICTラウンド…毎週、病棟や外来など各部署をランドンし、情報収集及び感染対策の実施状況を確認

〈組織図〉



(文責 感染管理部 日比野友美)

② 抗菌薬適正使用カンファレンス…毎週水曜日、ASTにより使用制限抗菌薬の届け出および血液培養検査の結果の陽性判明を起點に感染症治療のモニタリングを行い、必要に応じ抗菌薬の適正使用に向けたフィードバック

③ 職員の健康管理・職業感染対策・事務部門と協力し、麻疹、風疹、水痘、B型肝炎に対する抗体価の把握およびワクチン接種の推進

・職員の針刺し・切創の発生時の対応を事務部門、外来部門と協力し、エピネット様式に則り報告書による事例の集計・解析とともに針刺し事例の減少へ向けて取り組みを実施

・職員への感染防止対策に関する教育として、全職員に対し年2回感染対策講演会を実施

新中央診療棟の基本設計が まとまりました！

新中央診療棟整備については、平成29年7月から基本設計に着手していましたが、平成30年6月に完成いたしました。ここでは、その概要について簡単にご紹介します。詳細についてご覧になりたい方は、当院の公式ホームページに掲載している資料をご確認ください。

新中央診療棟整備・東病棟改修の概要

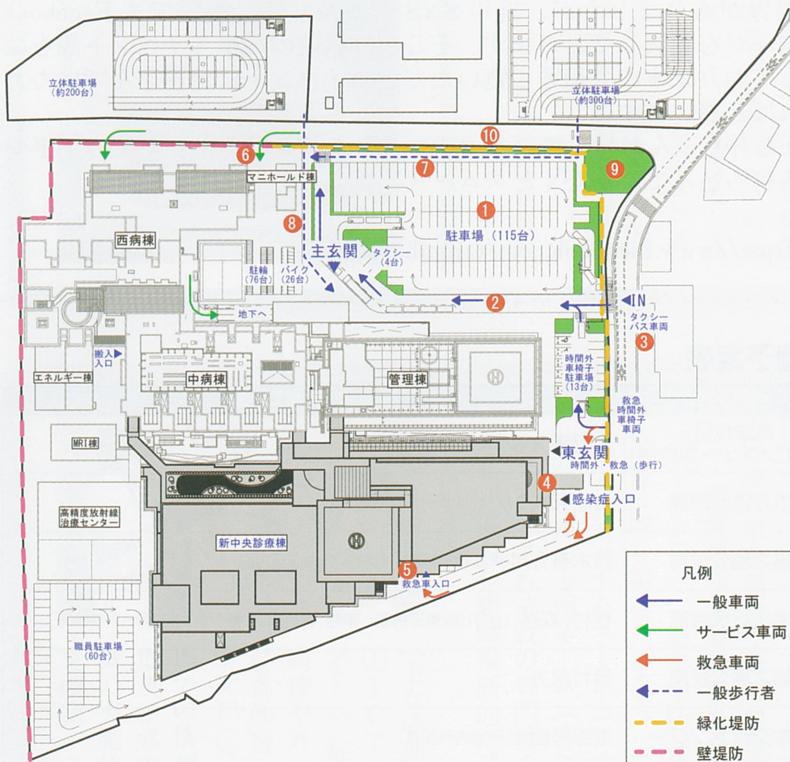
<新中央診療棟の概要>

- 建設場所：現在の南側駐車場
- 延床面積：約23,000m²
- 構造等：地下1階地上6階PH階、鉄骨造、免震構造
- 東病棟改修面積：12,858m²のうち約5,400m²
- 改修後の東病棟は、管理棟に名称変更
- 新中央診療棟開設予定：2022年度

<整備・改修後の病院全体の姿>

- 病床数：575床（現在と同じ）
- 病院全体の延床面積：65,400m²（約10,400m²増）
- 駐車台数：約700台（現状より約250台増）
内、患者用は約550台

配置計画・イメージ図



- ① 平面駐車場と立体駐車場を合わせて患者・職員用駐車場を約700台（内、患者用は約550台）確保します。
- ② 構内通路は一方通行として十分な長さを確保し、渋滞緩和を図ります。
- ③ 一般利用者と救急、時間外利用者の入口を明確に分離し、分かりやすいアプローチとします。
- ④ 主玄関とは分離して時間外・救急（歩行）、感染入口を設けます。
- ⑤ 救急車入口までは専用動線とし、来院者の通行の妨げにならないようにします。
- ⑥ サービス用動線は他の動線と分離し、スムーズな運用を可能にします。
- ⑦ 敷地内に歩行者通路を設け、安全に配慮します。
- ⑧ 主な歩行者通路にアーケードを設けます。
- ⑨ 既存の植栽帯は残し、地域の緑化に貢献します。
- ⑩ 浸水対策として敷地境界に沿って緑化・壁堤防を設けます。

外来ブロック受付と待合空間のイメージ図

フロアのすべてのブロック受付を一望でき、各診療科の位置がわかりやすい配置とします。



木とタイルの列柱エントランスホールイメージ図

建物群を結びつけた主軸動線と、視認性の高い吹抜け空間を配置します。病院建物の全体を直感的に把握しやすくなり、利用者にとっての分かりやすさを実現します。

産婦人科の紹介

こんにちは。今回は、県立多治見病院の産婦人科について、紹介させていただきます。県立多治見病院の産婦人科と聞いて、受診したことのある患者さんやご家族の方は、どの様な印象をお持ちですか？「朝早くから夜遅くまで、いつも忙しそう。」「キリッとして格好良いし、優しい先生もいるけど、怖い先生もいる。」などと私たちでは思っていますが、どうでしようか？実際は、お産で赤ちゃんに出会うのが好きだったり、手術で病気が良くなってくれるのが生きがいであります。産婦人科の診療は、大きく、分娩を取り扱う産科と婦人科に分かれています。産科では、切迫早産、多胎妊娠、高齢妊娠、糖尿病や高血圧等の合併症妊娠、胎児異常の予想される妊娠、緊急の母体搬送等の、お母さんや赤ちゃんに何らかの危険性を伴う妊娠を中心には、また、婦人科では、腹腔鏡下手術や子宮鏡下手術等の可能な子宮筋腫、子宮内膜症や卵巢のう腫等の良性疾患の患者さんを中心に、診療を行っていますので、心配なことがあれば、気軽に相談して頂けると、嬉しいです。ただ



(文責 副院長兼産婦人科部長 竹田明宏)

し、がん診療拠点病院である県立多治見病院は、敷地内全面禁煙となっています。WHO憲章にも謳われているように、喫煙は「病気の原因の中で予防できる最大でかつ単一のもの」です。診療の安全性・良好な療養環境を確保すると共に、女性や子供の健康を守る立場から、喫煙している方の診療は行っておりませんので、必ず、禁煙している状態で受診していただくよう御協力を願います。喫煙している方の初診は、お断りすることになりますので、受診時には御注意下さい。なお、緊急時は、この限りではありませんので、十分なご理解をお願いします。

当院は、厚生労働省の審査を受け指定を受けた臨床研修病院として、大学卒後に医師免許を取得した医師・歯科医師（研修医）が基本的な手技、知識を身につけるため、2年間の初期臨床研修医の受け入れを行っています。

研修中は、いたずらに医療技術を取得することのみに目を奪われることなく、「患者さんの立場に立って」医療に当たる能力を身につける事も重要な目標とし、日々切磋琢磨しながら研修しています。

また、当院では、初期研修終了後、専攻診療科の認定医・専門医の資格を得ることを想定した3年目以降の後期臨床研修も行っています。

平成30年度は、医科22名、歯科2名の初期臨床研修医がいます。よろしくお願いします。

臨床研修医の紹介

1年目研修医



2年目研修医



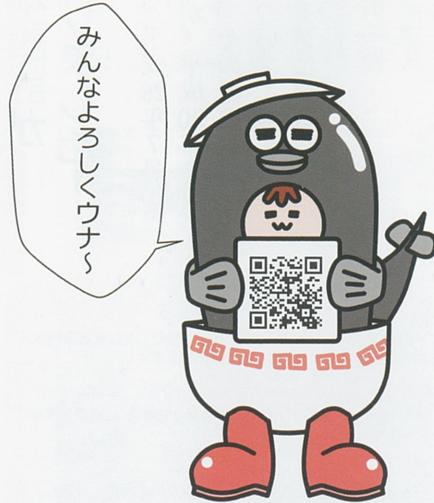
平成30年度自治体立優良病院表彰

(総務大臣表彰)を受賞しました!

岐阜県立多治見病院はこの度、経営の健全性が確保されており、かつ地域医療の確保に重要な役割を果たしていることが総合的に評価され、「平成30年度自治体立優良病院総務大臣表彰」を初受賞しました。その授賞式が、平成30年6月21日(木)に東京都内で執り行われ、当院の近藤院長が出席し、総務大臣から平成30年度自治体立優良病院表彰を受けました。



TOPICS



Facebookご覧ください!

皆さんの病院のイメージはどういうものでしょうか。病気になって来るところ、怖いところ、暗いところ等、ネガティブなイメージが強いのではないかでしょうか。

しかし我々職員は、来院された方や入院された方に、少しでも気持ちを和らげて頂きたいという思いが強くあります。今まで情報発信に限界がありました、近年SNSが普及して、当院でもFacebookのページを運営しております。そこでは病院の行事・イベント等を紹介しておりますので是非ご覧いただき、イベントに足を運んでいただければと思います。

うな丼ちゃんが持っているQRコードを読み取るか、下記のアドレスを打ち込んでいただくとスムーズに見ることが出来ます。

<https://www.facebook.com/tajimihospital>

■平成30年度 健康づくり講座年間予定表

開催希望日(時期)	演題	施設名	講演者(所属・役職)
9月11日(火) AM	認知症予防の活動	共栄校区: グリンビュー集会場	矢野孝久(リハビリ副技師長)
9月11日(火) 13:30~14:30	誤嚥性肺炎	市之倉公民館	市原邦夫(リハビリテーション科 言語聴覚士)
9月21日(金) 14:00~15:00	ここまでできる血管内治療	脇之島公民館	鈴木康介(中央放射線技部 診療放射線技師)
11月21日(水) 10:00~11:00	上手な病院のかかり方 —事務、看護師、技師の立場から—	滝呂区民会館	棚村、森藤、山中(医療連携室 事務、看護師、診療放射線技師)
11月29日(木) 14:00~15:00	膀胱癌 ~発見からその治療まで~	脇之島公民館	奥村徳夫
1月31日(木) 13:30~14:30	動脈硬化と足の病気	根本交流センター	堀部秀樹(循環器内科部長)
1月31日(木) 13:30~14:30	第2の心臓といわれている 足を守りましょう	精華公民館	日比野剛(循環器内科総括部長) リハビリ職員(リハビリテーション科)
1月から2月中旬	上手な病院のかかり方 —事務、看護師、技師の立場から—	笠原中央公民館	棚村、森藤、山中(医療連携室 事務、看護師、診療放射線技師)
1月 未定 14:00~15:00	上手な病院のかかり方 —事務、看護師、技師の立場から—	脇之島公民館	棚村、森藤、山中(医療連携室 事務、看護師、診療放射線技師)
2~3月 未定	認知症予防の活動	池田町屋公民館	矢野孝久(リハビリ副技師長)
3月7日(木) 13:30~14:30	第2の心臓といわれている 足を守りましょう	養正公民館	日比野剛(循環器内科総括部長) リハビリ職員(リハビリテーション科)

※八百津町と御嵩町依頼の講演会も行っております。演題及び参加資格等詳細については、各市町村のホームページにてご確認ください。



地方独立行政法人
岐阜県立多治見病院

平成30年8月1日発行 第38号

発行責任者／近藤泰三 編集／地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院広報委員会



岐阜県立多治見病院 公式ホームページ
<http://www.tajimi-hospital.jp>



岐阜県立多治見病院 公式フェイスブック
<https://www.facebook.com/tajimihospital>

